

死刑廃止の条件をめぐって

犯罪被害者の人権

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

街をいくみなさん。

この綾瀬駅のそばには東京拘置所があります。

そこでは約三〇名もの死刑確定囚、さらに多くの死刑判決を受けるかもしれない被告の人たちが生活しています。私たちは日本の死刑囚のおかれている状況や、死刑制度そのものに疑問をもち、死刑について考えてみようと呼びかけている市民グループです。

ビラの裏面は、アンケート用紙になっていますが、統計を取ろうということではありません。みなさんが、どのように死刑の問題を受けとめておられるのか、私たち自身も考え直すためにご意見を募っています。

★★★

このアンケートには「死刑制度についてどう思いますか」という項目があります。

以前は、この「2 条件が整えば廃止してもいい」の項目に○を付けた方の多くが、その条件の内容として、「終身刑の導入」を記されていました。死刑廃止を推進する国会議員連盟が「代替刑」として終身刑を導入した法案を準備していることが報道されていた影響もあるのでしょうか。

☆☆☆

ところで、最近、受け取った回答のなかに、「千歩譲って（死刑を）廃止するとしても、被害者（遺族）の人権確立を実現したのちにはじめて考えることができる」というものがありました。犯罪被害者へのサポートもないがしろにされている現実を別紙で訴えられていました。そして、「犯罪被害者の人権が全くと言っていいほど保証されていないわが国の現状に鑑みる時、廃止さえ実現されればよい、被害者の人権擁護は関知しないというのでは『加害者の人権ばかり唱えている』と批判されてもあながち言いがかりとばかりは言えないような気がします」と結ばれていました。

★★★

たしかに、私たちは「加害者の人権」を問題にしています。しかし、もちろん、「被害者の人権」がなおざりにされてよいとは思っていません。逆に、それは、本当はつながっていることではないかと考えています。

★★★

今の世相は、むしろ、加害者、被害者を問わず「人権」を主張する者へのバッシングがかもしだされているのではないかと危惧しています。

ご意見をお寄せください。